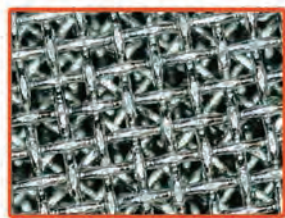
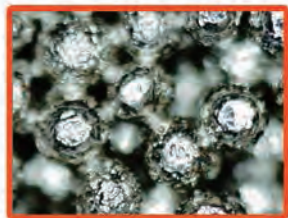


小段金属株式会社

オンリーワンの「革新」 焼結金属で世界を切り開く

- 海外発注可能
- 納期相談
- 企画力・自信
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作・小ロット
- 量産対応



新素材を用いた「3Dフィルター」で問題解決への提案 (左: 焼結金属フィルター / 右: 積層金網焼結)

業務内容

15種類の素材を焼結処理する日本一の加工能力

切削技術を生かしたオリジナル商品「ミニチュアバルブ」の製造・販売で基礎を築き、オイルショックを契機に太陽熱温水器用架台を発売して業容を拡大した。その技術は太陽電池用架台に応用され、政府が唱える再生可能エネルギーの普及に寄与している。焼結金属の開発は昭和55年。コンプレッサーの排気消音器の製造を依頼され、フィルター用利用したのに始まる。青銅、切り粉状ステンレス粉を使用した製品づくりにとどまっていたが、研究開発機能の強化のため新素材開発用焼結機を相次いで導入し、現在はチタン、銅、ニッケル、アルミニウムといった金属やセラミックス、ガラスなどの非金属まで、15種類の素材を焼結処理できるなど、日本国内でも圧倒的な加工能力を誇る。

強み 最先端分野に使われる 焼結金属フィルター

「遊び心を忘れずに独創的な発想で常に挑戦する」のが基本方針。顧客の問い合わせには初めての素材であっても、断ることなく真摯に対応する。松本亮介関西大学システム理工学部准教授（工学博士）、佐々木恭助岐阜大学客員教授（工学博士）、フルテック（株）古田吉雄社長（工学博士）をはじめ、技術支援を受ける幅広いアドバイザーを抱える。日本初の水素ステーション用重要部品や、宇宙航空研究開発機構「JAXA」に納入した人工衛星・探査機部品、海洋研究開発機構と

共同開発した微小粉体回収装置など、焼結金属フィルターは最先端分野に使われている。



海洋研究開発機構と共同開発した微小粉体回収装置

焼結金属 フィルター

新素材開発焼結機を導入、 研究開発型企業に脱皮

球体の表面だけを微細な温度調節で溶かし、球同士が溶着し結合する多孔質体の焼結金属。焼結分野の90%以上は緻密体が占め、多孔質な焼結金属フィルターは2%程度にとどまる。耐熱、強度に優れた地球に優しいエコ製品で、濾過、吸音など今後の応用展開が期待できる。小回りがきく中小企業の特長を生かし、このニッチ分野を深掘りしてオンリーワン企業を目指す。平成20年の本社新築移転を第二創業期と位置付け、同25、26年に新素材開発用に焼結機を導入し、研究開発型企業への脱皮を図っている。

今後の 展望

ハノーバーメッセで海外 進出、医療分野を強化

平成26年にISO9001を取得、同27年にISO14001の取得を予定し、品質管理、環境管理に配慮した企業を目指し、同28年には中小企業新事業活動促進法に基づく「経営革新計画」を取得する予定。5年後の同31年には世界最大規模の産業技術見本市といわれるドイツのハノーバーメッセに参加し、海外進出の足がかりにする。国内は高付加価値、高機能ニーズが高く錆びない特徴が生かせる医療分野を強化する。

COMPANY PROFILE

小段金属株式会社

大阪26 ISO 9001

当社の 歴史

昭和35年創業、機械加工からスタートし黄銅製ミニチュアバルブで基礎を築きました。オイルショック後太陽熱温水器用架台、ガソリン携行缶がヒットし業容を拡大。再生可能エネルギーの全量買い取りが開始され、太陽熱温水器の技術を太陽電池用架台に応用し、実績を上げています。焼結金属の開発は同55年。青銅、針状ステンレスに材料が限られていましたが、新素材開発用焼結機を相次いで導入し、チタンやセラミックスなど、現在は15種類の素材を焼結処理する日本一の加工能力を誇っています。

社内ラボ機能を最大限に生かし、常に進化する「研究開発型工場」が長所です。

代表取締役社長 小段 昇さん



■主な事業内容

焼結金属の設計製作、各種金属の精密加工、太陽電池架台の製作、自社ブランド製シールテープ

■主な取引先（納入先）

医療機器メーカー、精密機器メーカー、ガス検知器メーカー、医療研究機関、大学等研究機関

住所 / 〒547-0002
大阪市平野区
加美東2-6-6
TEL / 06-6791-9023
FAX / 06-6794-5524
創業 / 昭和35年5月
設立 / 昭和55年11月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 20名

<http://www.kodan.co.jp/>